

意見公述

林 心平



1、日照と健康

明るさは照明で代替できても、

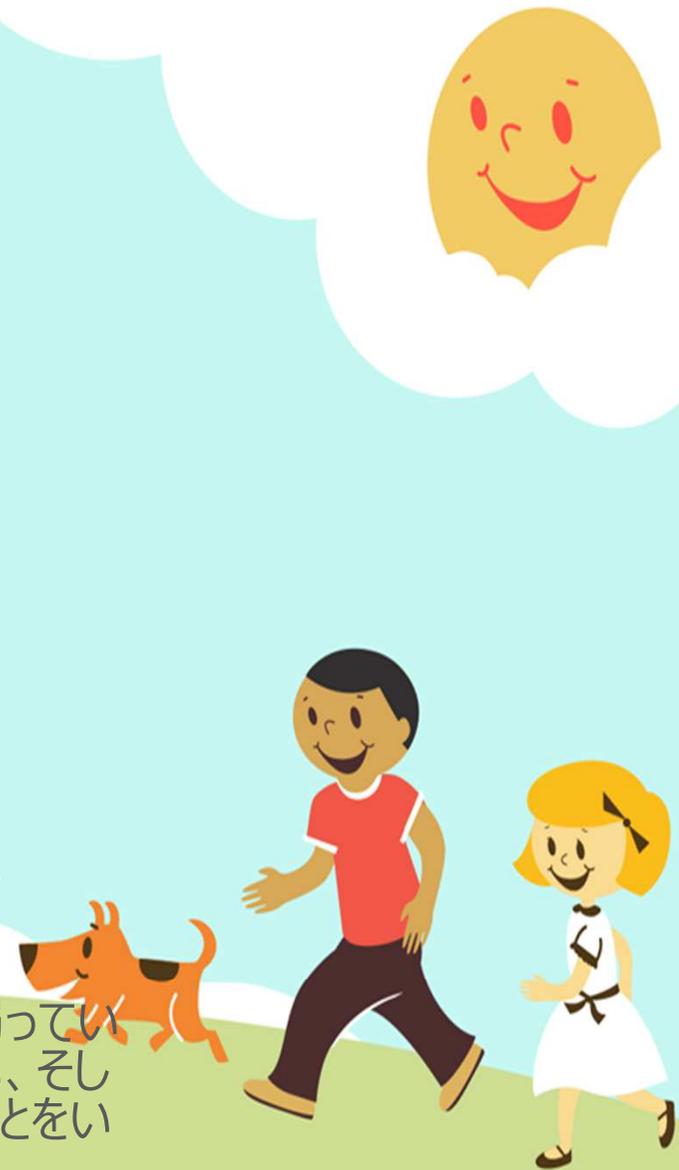
代替できないもの

「子どもの成長に必要なビタミンDの生成機能」

「日が当たらない圧迫感、閉鎖感」

精神的な満足は、人間の健康な生活に重要
冬季鬱

WHO憲章「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいう」



よって

- 総合的に健康への影響を考えなければならない。
- もちろん、商業地域の小学生と、住居地域の小学生においても、健康な生活は同じはず。



ところが、見解書では

- 「建物が建設されても、健康維持に必要な十分な日射は確保されると想定しており、大きな影響はないものと考えています。」
- → ただ主観的に「想定して」、「考えて」いるだけであると書かれている。質問に対する返答になっていない。



ただし

- どのくらい日照が必要か。心理的な問題を含めた、定量的な指標が必要だが、ない（と思われる）。
- 冬季鬱も人によって、どんな環境下でなるのかは違う。
- 住民がどのくらい日照を要求しているか。というところから考えざるを得ない
（日本建築学会 環境設計小委員会 + 光環境小委員会 「商業地域に建つマンションの日照問題シンポジウムの記録」2003 年12 月）。
- 北九条小学校の在校生と保護者は納得しているのか。



見解書

- 「学校に隣接するという状況に配慮し、設計に当っては高層棟を二つに分割し、建物をスリム化することで、その影響をできる限り抑える計画としています。」
- →「冬至においては、9時から15時の間に北九条小学校の校舎が2時間以上3時間未満、校庭が3時間以上4時間未満、校庭の半分が4時間以上5時間未満日陰になる」という計画が、「影響をできる限り抑える計画」だとしたら、計画に根本的な問題がある。
- 計画に対して納得していない保護者が多くいる。
- 署名活動中



日本一日影の小学校になる？

- 日本の中でもっとも高緯度地域にある大都市札幌において、ただでさえ日照時間の少ない冬に、これだけの時間、小学生を日影に置くことは、子どもたちの肉体系精神面における健康に影響を及ぼす心配がある。
- 子どもたちの健康を損なわないような計画に変更すべきである。



2、北8西1地区第一種市街地再開発事業について環境評価をするときに、考慮すべきことから

- 環境全体をとらえること
- 事業者の説明によると、冬至の14:00には50階建マンションの影は抜ける
- ところが、50階建マンションの影が抜けた後、合同庁舎の影が小学校を覆うかもしれない







合同庁舎の影





グランドより
2014年
1月16日
13:30





グランドより
2014年
1月16日
14:00





グラウンドより
2014年
1月16日
14:30





グランドより
2014年
1月16日
15:0





南側駐車場
より
2014年
1月16日
13:30





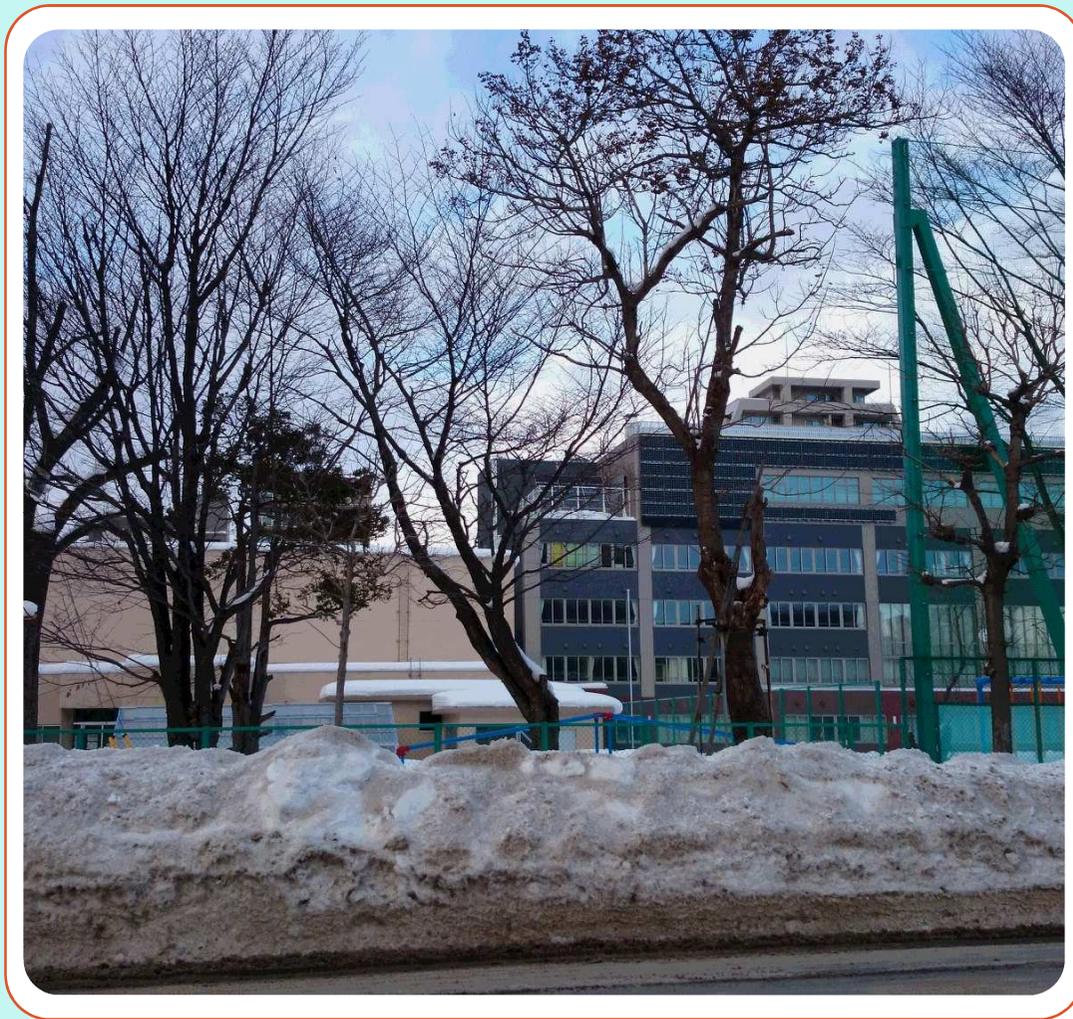
南側駐車場
より
2014年
1月16日
14:00





南側駐車場
より
2014年
1月16日
14:30





南側駐車場
より
2014年
1月16日
15:00





東側歩道橋
より
2014年
1月16日
13:30





南側駐車場
より
2014年
1月16日
14:00





南側駐車場
より
2014年
1月16日
14:30



結論

- 子どもの健康を考えるならば、小学校の環境を総合的に評価する必要がある。
- 本計画のみならず、周辺の建物の影響も配慮すべき。
- 今後、より精密な調査が必要ではないか。



おわり

